

みんなの声をきかせて～子どもの権利について考えるワークショップ～ 実施報告書(概要版)

1 目的

子どもの権利について、子ども自らが学び語り合う「子どもの権利について考えるワークショップ」を開催することにより、子どもの考えや思いを聴取し、三鷹市子どもの権利に関する条例（仮称）の制定及び三鷹市子ども総合計画の策定に向けて参考となる意見を取りまとめることを目的とする。

2 ワークショップ概要

(1) 日時

令和6年12月15日（日）

【午前の部（小学1～6年生）】 午前10時～正午

【午後の部（中学生～18歳）】 午後2時～4時

(2) 場所

元気創造プラザ4階 生涯学習センター ホール

(3) 募集方法

住民基本台帳に登録されている小学1年生～18歳（開催日時点）のうち、市内のエリア毎に子どもの人口比及び男女比を勘案の上、2,000人を無作為抽出して案内書を送付し、応募形式にて40名（午前の部：20名、午後の部：20名）を募集した。その結果、定員を上回る応募があったため、抽選により参加者を決定した。

【参考】応募人数 午前の部：124名、午後の部：55名

(4) 参加者

【午前の部】18名（小学校低学年：9名、小学校高学年：9名） ※当日欠席4名

【午後の部】15名（中学生：7名、高校生～18歳：8名） ※当日欠席5名

(5) 内容

ア あいさつ及びアイスブレイク

イ 講義「権利ってなんだろう？」

ウ グループワーク及び発表

【午前の部】テーマ

① 自分が大切にされることってどんなこと？

② 大切にされるために必要なことってなんだろう？

【午後の部】テーマ

① みんなが守ってほしい権利とは？

② みんなが守ってほしい権利が守られるために、何が必要？

※ 午前の部では、子どもが考えやすいように、「自分が大切にされると感じるために家、学校、まちで大人にしてほしいことや普段不満に思っていること、うれしいと思っていることは何か」という聞き方を行い、意見を出し合った。

※ 午後の部では、「子どもの権利条約」の条文をもとに、意見を出し合った。



3 グループワークでの主な意見

(1) 午前の部

ア 小学校低学年

	①自分が大切にされることってどんなこと？	②そのために必要なことは？
家のこと	【生活について】 もっと遊びたい、ゲームしたい、旅行に行きたい 等 【家族について】 仕事から早く帰ってきてほしい、一緒に公園へ行きたい 等	・休みや時間が必要 ・お金が必要 ・勤務時間を減らさせる 等
学校のこと	【授業について】 好きな授業（体育、図工ほか）を増やしたい、休み時間を増やしたい 等 【生活について】 バスで登校したい、冬は水道からお湯が出てほしい 等 【施設について】 体育館を広くしてほしい、図書館が増えてほしい 等 【先生について】 保健の先生を増やしてほしい、優しくしてほしい 等	・担任の先生や校長先生に意見を伝える ・学校の近くに引っ越す ・水道局の人に言う ・図書館を増やす、他の学校と図書館の大きさを同じにする ・先生を選びたい 等
まちのこと	【施設について】 公園、お店、遊興施設を増やしてほしい、子どもバザーを開いてほしい 等 【人について】 優しい大人が増えてほしい 等 【生活について】 事故や事件が無くなってほしい、ごみをちゃんと捨ててほしい 等	・公園を増やすために役所の人と話す ・道路を広くする、信号を増やす ・ごみ箱を増やす、ポイ捨て禁止の看板を作る、防犯カメラ設置 等

イ 小学校高学年

	①自分が大切にされることってどんなこと？	②そのために必要なことは？
家のこと	【生活について】 休める場所がほしい 等 【家族について】 いっぱいほめてほしい、兄弟と比べないでほしい、テレビやゲームの制限をなくしてほしい 等	・家や兄弟でまとめないでほしい、年齢の違いをわかってほしい ・権利を理解してほしい 等
学校のこと	【授業について】 授業時間が長い、課題が多い、それぞれのレベルにあった勉強にしてほしい、余裕がほしい 等 【生活について】 バスや自転車で通学したい、差別やいじめをやめる、意見をしっかり聞く、大人や友達から信頼される 等 【施設について】 校舎が古い、動物とのふれ合いの場所がほしい 等 【先生について】 話をちゃんと聞いてほしい、話が長い 等	・学力に合わせてクラス分けをする ・課題を少なくする ・先生を選べるようにする ・先生に意見を言える場をつくる ・法律や制度を変える ・みんなが思いやりを持つ ・信頼を積み 等
まちのこと	【施設について】 ボール遊びができる公園、小さい子ども用ではない公園を増やしてほしい、勉強できる場所がほしい 等 【人について】 優しい人が増えてほしい、高齢者だけでなくみんなに有利な社会になってほしい 等 【生活について】 子どもでも仕事がしたい、職業体験したい、全世代に投票権がほしい、話し合いの場がほしい 等	・公園の中にボール遊び専用スペースをつくる ・室内の公園をつくる ・自転車専用の場所をつくる ・みんながやさしくなればいい ・みんなで話し合ったり、交流できる場所をつくる ・考え方を変える 等

(2) 午後の部

ア 中学生

①みんなが守ってほしい権利とは？	②守られるために何が必要？
【第2条 差別の禁止】 見た目等で小さな差別がある、死んでしまう子もいる	・差別をきびしく取り締まる ・自分の意見をしっかり持ち、他人に流されない
【第5条 親の指導を尊重】 親の言うこと全てが正しいと思わずに周りの大人に相談できる環境を作してほしい	・カウンセラー、電話相談サービス
【第6条 生きる権利・育つ権利】 当たり前だけど大事	・危ない状況の子どもを保護する施設 ・本人を尊重する
【第14条 思想・良心・宗教の自由】 大人になった際に、自分の意見を言えなくなってしまう	・一人ひとりが自分の意見を大事にし、しっかり言えるようにする ・子どもの意見を大人がよく聞く
【第16条 プライバシー・名誉の保護】 犯罪に巻き込まれたり危険にさらされる場面が増える	・教育の内容に取り入れる ・パスワード等による保護
【第23条 障がいのある子ども】 障がいを理由に周りと同じことができない環境をなくしたい、差別にもつながる	・障がい者向けの学校をつくる ・一人ひとりを大事にする
【第24条 健康・医療への権利】 長生きしたいし、ずっと健康でいたい	・医師、医薬品
【第26条 社会保障を受ける権利】 親のお金がないことで周りの人が当たり前に行っていることができないのは不公平	・虐待などで、親の許可がなくても生活保護が受けられる制度
【第27条 生活水準の確保】 これを守らないと生きていけない	・お金 ・衣食住
【第28条 教育を受ける権利】 いじめや病気等でも受けられない人がいる、奨学金	・先生、教科書、学習サイト ・学校にいけない子が集まる場所
【第31条 休み、遊ぶ権利】 休みや遊ぶ時間がないと疲れてしまう	・子どもが周りに気を使わずに遊べる場所

イ 高校生～18歳

①みんなが守ってほしい権利とは？	②守られるために何が必要？
【第3条 子どもにもっともよいことを】 子どもの意見は取り入れず、大人にとって良い方を選んでる	・親以外の人に気軽に相談できる場を増やす
【第6条 生きる権利・育つ権利】 子どもは自分の権利を自分で守ることが難しい	・子どもが遊べる公園施設を増やす ・年代によりスペースを分ける
【第12条 意見を表す権利】 周りの意見に同調したり、雰囲気ので言えなかったりする、偏った意見のみ通ってしまうと良い選択に気づけない	・できるだけ自分の意見を言える場をつくる
【第13条 表現の自由】 【第14条 思想・良心・宗教の自由】 ある子が奇抜なアイデアを発表した時に、周りからいじめられてしまうことがある	・消極的な子どもでも自分の意見を言えるように先生などが配慮したり、いじめ相談窓口をよりオープンにする
【第17条 適切な情報の入手】 子どもに良くない情報から守られていない	・規制ではなく、情報の取捨選択を教える
【第19条 あらゆる暴力からの保護】 子どもは力が弱いため、大人の暴力から守られるべき、子ども同士のいじめも対策が必要	・スクールカウンセラーなど子どもが相談しやすい大人を増やす

①みんなが守ってほしい権利とは？	②守られるために何が必要？
【第23条 障がいのある子ども】 強制的に特別支援学校への入学を求められる、普通の学校にも行きたい	・ガイドラインをしっかりとまとめて明文化する ・各学校に支援者を雇う
【第28条 教育を受ける権利】 子どもの未来を大きく左右する、周囲にもお金が理由で進学をあきらめている子がいる、他人との関わり方などを覚えることができる	・図書館の自習室を広くしたり増やす ・義務教育期間の延長 ・塾代を安くする ・学校教育を充実させる
【第31条 休み、遊ぶ権利】 子どもの遊び場が少なく、遊びにくくなっている	・児童館など遊び場を増やす
【第32条 経済的搾取・有害な労働からの保護】 最近、闇バイトの被害が増えている	・三鷹市が若い人に向けてバイトを募集する（企画に協力してくれた店には物等で還元）

4 分析方法

午前の部については、家、学校、まちの3つの視点から「自分が大切にされることと、そのために必要なこと」について挙げられた子どもたちの意見を、キーワードや類似内容で仕分け、分析を行った。午後の部については、「子どもの権利条約」の条文をもとに「みんなが守ってほしい権利とそれが守られるために必要なこと」について挙げられた意見について、分析を行った。

5 考察

(1) 子どもの意見の傾向について

子どもの意見は、年代や生活スタイル、普段の行動範囲によって特色が見られた。年代が上がるにつれて、より俯瞰的に生活環境や社会を捉えるようになっている。

(2) 小学生の意見について

低学年では、まちについての意見が最も多く、公園や遊び場、買い物施設等への要望が多かった。高学年では、学校に関する意見が最も多く、授業に関することや友人との関わり方等の意見が挙げられ、低学年に比べるとより具体的な内容となっていた。

また、いずれの学年においても、家、学校、まちの全ての分野で、自分たちの意見や要望を伝える機会を創出してほしいということが伺えた。

(3) 中学生～18歳の意見について

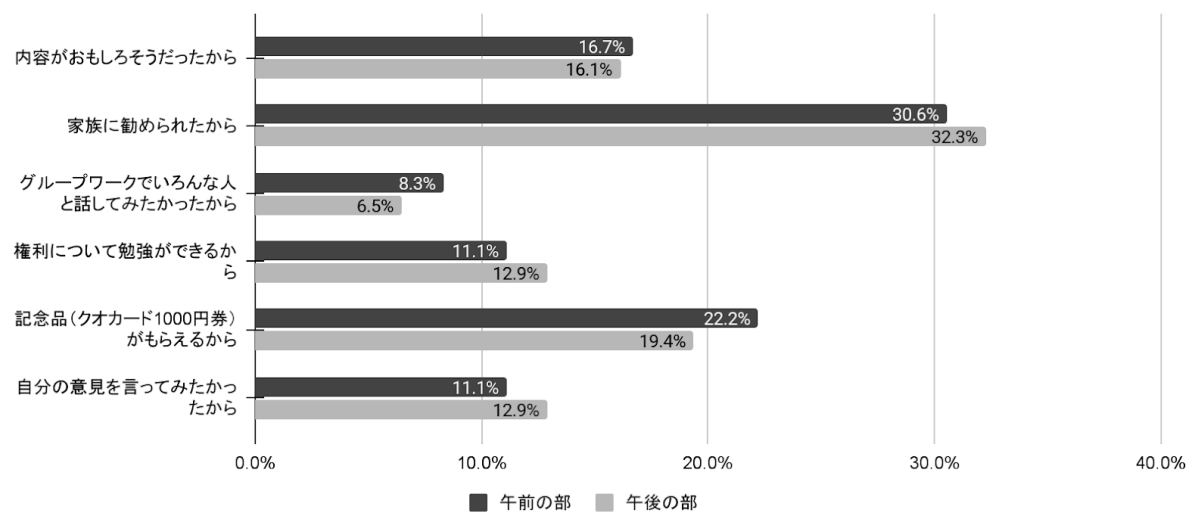
中学生では、教育に関する意見が多く挙げられ、いじめや差別など身近な内容を中心に幅広い意見が挙げられた。高校生から18歳においても教育についての意見が多く挙げられた他、意見の表明や情報の取扱いなど、社会で実際に体験したことに基づいた意見も目立っていた。

また、小学生と同様に自分たちの意見を伝える機会を求めていることに加え、保護者以外の大人へ相談できる環境を求めていることが伺えた。

6 参加者アンケート結果

【質問１】参加しようと思った理由は何ですか？（複数回答可）

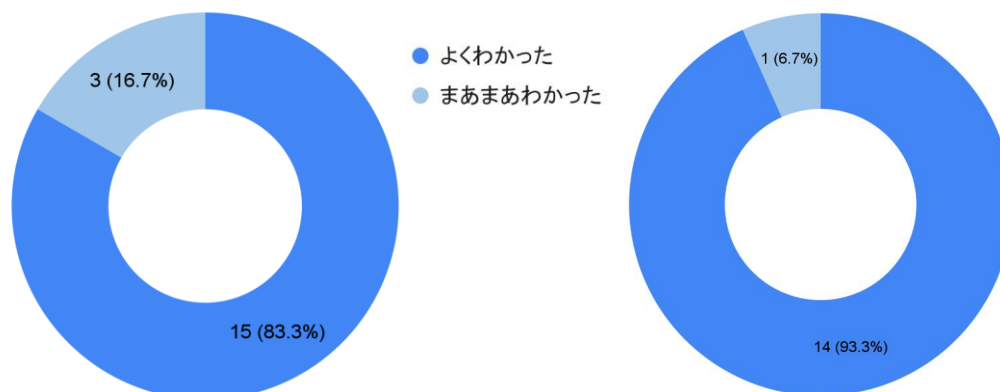
〈午前の部 n=36〉 〈午後の部 n=31〉



【質問２】講義（子どもの権利についての説明）の内容はわかりましたか？（単数回答）

〈午前の部 n=18〉

〈午後の部 n=15〉

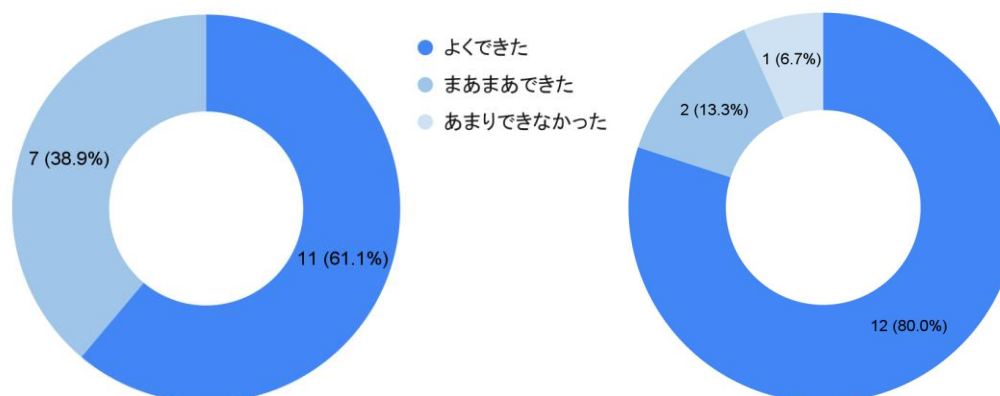


※ 午前の部、午後の部ともに「あまりわからなかった」「まったくわからなかった」は0件

【質問３】グループワークでは自分の意見や考えを話すことができましたか？（単数回答）

〈午前の部 n=18〉

〈午後の部 n=15〉



※ 午前の部では「あまりできなかった」「まったくできなかった」は0件

※ 午後の部では「まったくできなかった」は0件

【質問4】 質問3の回答を選んだ理由を教えてください。

～主な回答～

参加回	回答	理由
午前の部	よくできた	・たくさん言いたいことがあったので、話せてよかった ・学校よりも意見を出せた ・説明がわかりやすかったし、話しやすい雰囲気だった ・みんなの意見を聞いて、わかった事を伝えられた
	まあまあできた	・もっとお話ししたかった ・具体的に書いたり、その理由が言えた
午後の部	よくできた	・みんなで意見を出し合って、お互いに自分の考えを深められた ・自分の思ったことはその都度言うことができた ・みんな本心から言っているの、仲良くなりやすかったし、意見を言いやすかった
	まあまあできた	・はじめに行ったアイスブレイクで、遠慮せずにグループの人と話せるようになった。話す内容も面白かった ・グループが話しやすい感じだった
	あまりできなかった	・難しい

【質問5】 今日のワークショップに参加した感想を教えてください。

～主な回答～

参加回	感想
午前の部	・すごく楽しかった ※ 多数回答あり ・みんなの意見や自分の意見について、聞いたり話したりできてよかった ・とっても楽しかったし、権利について学べてよかった ・三鷹の色々な人と意見を言い合えて、いい経験になった ・気軽に話せたし、自分の意見を言うことができたので、とてもよかったと思う。こういう話せる場をもっと開いてほしい
午後の部	・普段考えることがなかったから、面白かった ・いろんな人と意見を交換できたり、初対面でも仲良くできて楽しかった ・自分が持っていなかった視点の意見をたくさん聞けた。また、今まであまり考えたことのない内容だったので難しかったが、自分の意見をたくさん言うことができてよかった ・このようなワークショップに参加したのは初めてだったが、面白かったし勉強になった。次に機会があったら別のワークショップにも参加してみようと思う ・他人の意見を肯定し、寄り添い、発展させることの難しさを感じた